

令和 4 年 3 月 23 日

函館市内における路線バスの現状について

函館バス株式会社

代表取締役社長 森 健二

1. 路線バスの現状について

現在、全国の路線バスは、人口減少やマイカー利用によるバス利用者の減少によって、路線縮小や減便を含めた事業規模の縮小・効率化を進めている状況にあり、国土交通省の自動車輸送統計によると、乗合バスの利用者は1968年の101億4400万人をピークに、2015年には42億7000万人と半分以上に減少しており、バス事業自体を廃止する事業者も出てきている状況にあります。

この状況下で、新型コロナウイルスの感染拡大による外出控えや学校休校の影響もあり、北海道内の令和2年度路線バス利用者は前年比3割減と大幅に減少しておりますが、市民生活を支える公共交通という性質上、多くの路線バス事業者では、大幅な減便等による対応ができず、非常に厳しい経営環境にあります。

弊社においても、今後の事業継続を鑑み、事業改善・収支改善を継続して実施しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、なかなか改善がすすまない状況となっています。別添の「図1 函館全域輸送量図」は、函館市内における主要路線の輸送量（※）を示しておりますが、東部地域を中心に、非常に厳しい状況が確認できるほか、旧市内エリアにおいても、これには描かれていない細い路線で慢性的に赤字となっている路線が多数存在しており、今後の安定した路線バス運行の維持のため、これまで以上に路線の効率化を進めていく必要があります。

※輸送量：年間輸送人員から算出した、運行キロ当たりの1日乗車人員

2. 東部地域バス路線について

(1) 現状

函館市東部に位置する、旧戸井町・恵山町・楸法華村・南茅部町の東部4地域路線については、地域福祉バス等の無料の移動サービスが競合し、従来から厳しい環境に置かれており、函館市地域公共交通網形成計画（再編実施計画2019-2021）においても、東部地区を運行する路線バスの慢性的な赤字の解消や路線維持のため、地域福祉バス等の路線バスへの混乗化などについて、地区の特性を踏まえながら地域関係者と十分に協議のうえ、見直しを図ることとなっておりましたが、協議のなかで、今後さらに人口減少が進み、混乗化などによる増収効果は限定的なものになるという見通しもお聞きしており、これによる路線バスの運行維持は難しいものと考えています。

このことから、将来的に抜本的な見直しが避けられない状況にありながら、これまでは、減便等による効率化を行うことで、なんとか東部地域のバス路線を維持してきましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、利用者が急減し、国の補助路線である地域間幹線系統の6路線のうち4路線が国の補助基準を下回る、輸送量15人未満となっているため、渡島地域生活交通確保対策協議会において承認を受け、現在は一時的に補助を継続しており、コロナ後の状況を見極めて早急に見直しをしなければ、今後、国の補助の対象外となる可能性が高く、路線の維持がさらに困難になると考えております。

(2) 今後について

弊社では、国の「地域間幹線系統」維持基準である「輸送量15.0(人/日)」を維持困難路線の目安の一つとして考えており、別添「図1 函館全域輸送量図」に市内主要路線の輸送量を図示しております。

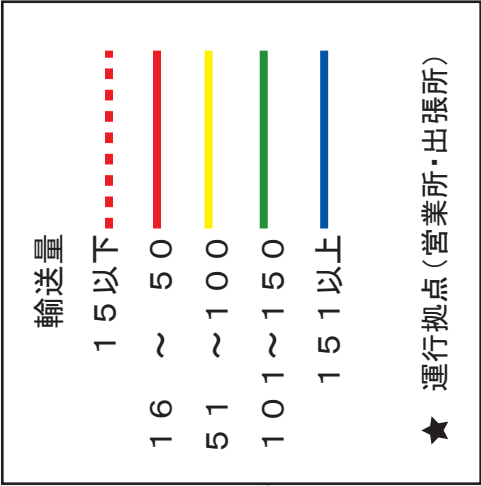
東部4地域の路線の内、特に「古部～日ノ浜団地～恵山御崎」間については、1日の輸送量が15人以下(赤破線)の「維持困難路線」となっており、早急に路線の見直しが必要であり、他の区間についても輸送量50人以下と他の市内路線と比較すると利用者が少なく、非常に多額の赤字を出しての運行となっている現状を鑑みると現状の路線を長期的に維持するのは難しいと考えております。

また、東部地域については、その地形的な特性から、海岸線を走る長大路線にならざるを得ず、他の市内路線のような路線の統合等による効率化が難しいことに加え、弊社の各拠点から遠いことから、乗務員の拘束時間や燃料費等、運営面からみても他の路線より多く負荷が発生しています。

弊社では、市民の生活の足を守るという公共交通事業者の使命として、多くの方にご利用いただいている幹線系統をはじめ、市内の多数の路線を維持していきたいと考えており、これら維持が難しくなっている路線について、協議会の場でより良いあり方を協議し、地域に適した路線の維持を図りたいと考えております。

一 圖

函館全域輸送量



《 参考：東部路線各線（地域間幹線系統）輸送実績 》

系統名	年度	キロ程 k m	運行回数 (便/日)	輸送人員数 人	赤字額	補助金	補助金収入込 収支額	対前年度 収支増減率
9 1 C系統 函館BC～ 釜谷	R 元年度	23.2	3.2	33,008	-3,475,287	2,893,200	-582,087	—
	R 2 年度	23.2	3.4	24,284	-4,005,969	2,591,600	-1,414,369	-143%
	R 3 年度	23.2	3.4	20,437	-3,703,248	2,661,400	-1,041,848	26.3%
9 1 ・ 9 1 A系統 函館BC～日ノ浜団地 ～恵山御崎	R 元年度	53.6	7.9	118,900	-27,853,755	24,010,000	-3,843,755	—
	R 2 年度	53.6	7.9	92,559	-37,120,194	25,919,600	-11,200,594	-191.4%
	R 3 年度	53.6	7.9	87,161	-37,086,899	27,137,800	-9,949,099	11.2%
9 9 A系統 函館BC～ 樺法華支所前	R 元年度	54.1	3.0	60,984	-10,678,898	9,353,000	-1,325,898	—
	R 2 年度	54.1	2.9	44,252	-12,488,199	9,467,200	-3,020,999	-127.8%
	R 3 年度	54.1	2.9	42,564	-11,709,500	9,493,400	-2,216,100	26.6%
9 9 系統 函館BC～ 鹿部出張所	R 元年度	55.7	3.0	91,973	-10,806,499	8,740,000	-2,066,499	—
	R 2 年度	55.7	2.9	58,225	-13,766,653	9,722,000	-4,044,653	-95.7%
	R 3 年度	55.7	3.0	54,140	-14,979,160	10,290,000	-4,689,160	-15.9%
9 1 B系統 函館BC～ 下原木	R 元年度	35.2	3.2	71,821	-5,803,517	5,022,000	-781,517	—
	R 2 年度	35.2	2.9	50,449	-8,242,255	5,008,600	-3,233,655	-313.8%
	R 3 年度	35.2	2.9	45,132	-8,625,228	5,227,800	-3,397,428	-5.1%
2 2 5系統 鹿部出張所～ 古部	R 元年度	36.8	3.1	63,191	-6,242,538	4,284,000	-1,958,538	—
	R 2 年度	36.8	3.0	52,485	-9,100,377	4,818,400	-4,281,977	-118.6%
	R 3 年度	36.8	3.4	45,318	-10,187,798	4,497,000	-5,690,798	-32.9%
合 計	R 元年度	258.6	23.4	439,877	-64,860,494	54,302,200	-10,558,294	—
	R 2 年度	258.6	23.0	322,254	-84,723,647	57,527,400	-27,196,247	-157.6%
	R 3 年度	258.6	23.5	294,752	-86,291,833	59,307,400	-26,984,433	0.8%